

大和三田会 会報

No.5

2012年12月

Keio University



目次

- 1) 平成 24 年大和三田会・新年会
- 2) 特別投稿「塾生時代の思い出」
(橋本 憲和/伊藤 祐介)
- 3) 第 5 回大和三田会総会
- 4) 自由投稿
「サラリーマンが茶道家へ変身した遠い道」河野 和彦
「ランドスケープの世界」椎木 空海
- 5) おしらせ

平成 24 年大和三田会・新年会

大和三田会の新年会が、平成 24 年 1 月 14 日（土）午後 6 時より、中央林間の「欧風台所ラ・パレット」にて開催されました。今年も大和三田会会員、会員のご家族、友人、ゲストを含め約 50 名と多くの方にご参加いただき、盛大な新年会となりました。

夕方 6 時に、清水麻帆幹事（平成 9 年法学部卒）の司会により、新年会がスタートしました。最初に井上勝彦副会長（昭和 36 年経済学部卒）より開会のご挨拶があり、続いて石井一夫幹事（平成 4 9 年文学部卒）のピアノ伴奏に合わせて参加者全員で慶應義塾塾歌が斉唱されました。太田滋大和三田会会長（昭和 23 年工学部卒）より新年の会長挨拶をいただいた後、富沢篤紘顧問（昭和 38 年法学部卒）のご発声による乾杯がありました。引き続き、古木通夫幹事長（昭和 44 年経済学部卒）からゲストの皆様のご紹介があり、立食パーティー形式による懇親会が始まりました。



太田会長よりおいしい日本酒のプレゼントもあり、おいしい料理、ワイン等を楽しみなが

ら、富沢篤紘顧問の尺八演奏もあり、参加者一同、塾生時代の思い出話などに花を咲かせました。宴もほぼ半ばを過ぎたところで恒例の大抽選会が開かれました。清水幹事の巧みな司会のもとに伊藤祐介サポーター（平成12年文学部卒）、椎木空海サポーター（平成20年政策・メディア研究科卒）もお手伝いに加わって抽選が行われ、豪華な景品の抽選発表に参加者が一喜一憂する場面も見られました。

新年会も終盤をむかえ、慶應カレッジソングの大合唱が始まり、「丘の上」「若き血」「慶應賛歌」が室内に響き渡りました。続いて、大日方健サポーター（平成10年商学部卒）の元気なエールの声が轟き、会場の盛り上がりが最高潮に達しました。後に、石塚雅男副会長（昭和40年経済学部卒）により中締のご挨拶があり、今年一年の会員全員の健康、活躍を誓い、新年会は盛会のうちに閉会しました。



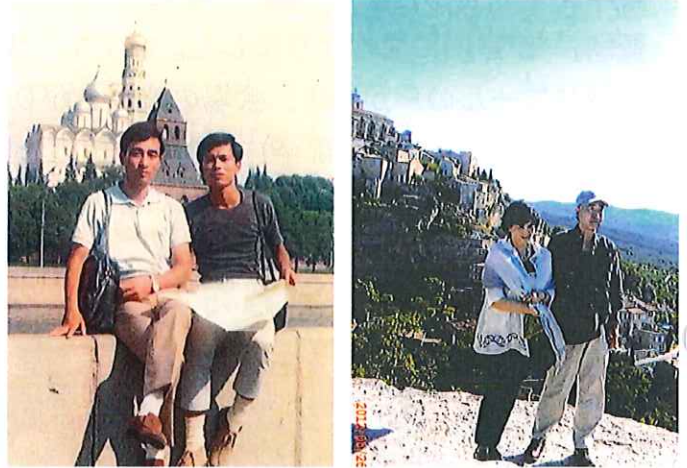
月日が過ぎるのは早いもので、平成25年の新年会の案内をする時期にもなっておりま
した。平成25年の新年会は、平成25年1月12日（土）午後6時、中央林間「欧風
台所 ラ・パレット」にて開催の予定です。皆様、是非ご参加いただき、楽しいひと時をす
ごそうではありませんか。ご参加をお待ちしております。

特別投稿 「塾生時代の思い出」

42 年前のヨーロッパ旅行

橋本憲和 経済学部 昭和 46 年卒業

今年 4 月定年退職し 41 年間の会社勤めを終えました。健康で大過なく勤められたことへの感謝と……つぐない？の気持ちから 6 月下旬、妻の希望の南仏からパリを回るツアーに夫婦で加わりました。ニースをスタートにプロヴァンス地方を巡り新幹線でパリに入るコースでしたが、天気にも恵まれ南仏の町や村は想像したとおり水のきれいな美しい表情を見せてくれました。帰国の翌日原稿の依頼を受けたので、大学 4 年の夏にクラブの友人と 2 人でヨーロッパを巡った約 40 日間の旅についてペンを執ってみました。



(左) モスクワ川のほとりで (1970 年 左が筆者)

(右) ゴルド遠望 (2012 年)

世界の歴史や文化に興味があったこともありヨーロッパを回るにはこの時期だとの思いで日本を離れました。

8 月 8 日、3 千トン程のソ連船ハバロフスク丸で横浜港を出航、津軽海峡を通過し 2 泊 3 日でナホトカ着、そこから陸路 9 時間の寝台列車でハバロフスクへ、この地からソ連の国内航空を利用してモスクワへ入りました。当時、空路ヨーロッパ入りするには、このコースが 1 番安かったのです。そのかわりモスクワでは高級ホテルに 2 泊以上するのが条件となっていて我々はウクライナホテルへ泊まりました。

船での旅立ちの経験はこの時だけですが、ボーツと汽笛が鳴り、船がゆっくりと岸壁を離れ、見送りの友人達とを繋ぐテープが切れ、そして彼等がだんだん小さくなっていく光景は本当に印象的で今でも鮮明に脳裏に残っています。

ハバロフスクからは旧型のジェット旅客機でシベリア上空を横断します。(今では誰でも見られる景色となりましたが) 一面緑のシベリアの森林の中にオビ、エニセイ、レナの大河が北極海に注ぎ、シベリア鉄道が東西にどこまでも延びているのを眺め、地球の雄大さに感動しました。

モスクワでは写真撮影等規制が多く何かと不自由でしたが、地下鉄のエスカレーターで

すれ違ったブルーの瞳、ぬけるような白い肌の少女のあまりにも清らかな美しさに心を奪われました。

モスクワからは日本で学割で購入したユーレイルパスをフルに利用し鉄道でヨーロッパ大陸を移動します。TEE（トランスヨーロッパエクスプレス）と呼ばれる最新鋭の特急列車も利用でき、鉄道の時刻表を片手に自由に行きたい場所を決めるといふある意味行き当たりばったりの旅のスタイルでした。

結果的に旅のコースは、モスクワ、ヘルシンキ、ストックホルム、コペンハーゲン、ハムブルク、ハイデルベルグ、フランクフルト、アムステルダム、パリ、マドリード、ニース、ジュネーブ、ツェルマツト、ローマ、インスブルック、ウィーン、モスクワとなります。同行の友人と次に行きたい所の意見が合わず、落ち合う場所日時を決め数日間別行動をとったり、旅半ばよりはアメリカで子供服のデザインの勉強の帰路ヨーロッパを旅行して帰るといふ20代後半の女性2人連れと一緒になったり（結局日本まで一緒、同行の友人は3年後このうちの1人と結婚）、旅の人数も単独だったり4人になったりと変化することとなりました。

アムステルダムでは夏休みで空室となっている大学の学生寮を格安に利用し、夕食時の食堂は各国の若者の交歓の場として盛り上がっていました。当時アメリカで「1日1ドルで暮らす法」といふヨーロッパ安旅行用のハウツー本がベストセラーで、同席したアメリカの学生に見せてもらったところ、この施設もそこに紹介されていました。この席で折り鶴を作りプレゼントすると我も我もと大好評でした。同じキャンパスで付き合っていた彼女が出発前、不器用な私に折り鶴の作り方を丁寧に教えてくれ、きれいな和紙を持たせてくれたのが大いに役立ちました。

マッターホルンの景観が最高といわれるツェルマツトのユースホステルの窓からは、朝焼けに染まる霊峰の荘厳な輝きを目のあたりにし感動しました。

ニースでは駅のそばの案内所で「インペリアルホテル」を紹介され、贅沢かなと思いつつ行ってみるとあまりにもひどいホテルで名前とのギャップに驚きました。着替えて白い大きな石の広がる浜辺で青く美しい海を眺めながら日光浴しました。9月に入った海岸はさすがに人影はまばらで（今思うと）トップレスの女性はいなかったと思いますが……。

食事節約の中でもマドリードの場末の立食い食堂で腹いっぱい食べたムール貝（食べるそばから貝殻を床に捨てるので床が一面貝に覆われてしまっている）、夜も終わりに近づきウィーンで入ったそれなりのレストランのウィナーシュニッツェル、ウィナーコーヒーの味は忘れられません。また、マドリードから乗ったTEE、「タルゴ」で同じコンパートメントに乗り合わせたスペイン人の家族から勧められ、鹿の皮の水筒から飲んだ赤ワインもラテン系の人達の人なつこさとともに記憶に残っています。

今回、会社生活にピリオドを打つにあたり、たまたま原稿を書く機会を得、自分の中で

は大きなイベントとなった 42 年前の手作りの旅を振り返る時、この旅がその後の社会人としての人生の中で何らかの影響を与えたのかも……と原稿を書きながら自問自答しています。

最後に、今回の南仏旅行でニースの海岸での感動を彼女と共有できた喜びと密かに感じていることを書き添えて筆を擱きます。

塾生時代の思い出

伊藤祐介 文学部 平成 12 年卒業

昭和 62 年、NHK で放映された大河ドラマ「独眼竜政宗」。当時 10 歳の私は、主演渡辺謙さんの伊達政宗に一目惚れ。さらにテレビゲーム「信長の野望」にはまったことも影響し、日本の戦国時代に興味を持ちました。そのうち、戦国好きから歴史好きになり、将来は歴史を勉強したいと考えるようになりました。そんな経緯で、平成 8 年に慶応義塾大学文学部に入学した私ですが、慶応義塾では、勉強以外のことに興味を持ってしまいました。そこで、私の「塾生時代の思い出」では、大学以外での思い出を綴ってみたいと思います。

慶応義塾に入学後、私は物珍しさから乗馬サークルに所属しました。「乗馬サークル」といっても、月に 2 回山梨県小淵沢町（現北杜市）のロッジに合宿で馬に乗る程度で、そのほかは主に週末に競馬活動を行う、馬好きの塾生が集まったサークルでした。このサークルの先輩の紹介により、2 年生の時に一口馬主会社のアルバイトを紹介してもらいました。この会社の社長が慶応義塾の塾員だったこともあり、卒業までの 3 年間、その会社でアルバイトをすることになりました。

一口馬主とは、競走馬に対して小口に分割された持分を通じて出資することにより、馬主登録されていない人でも間接的に馬主となった人のことをいいます。

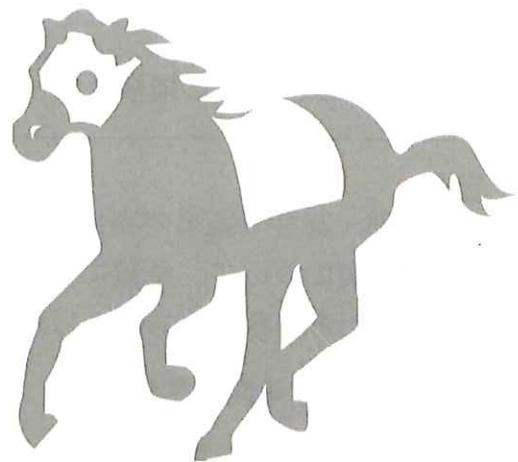
会社によってばらつきはありますが、一般的に 1 頭の馬を数十から数百口に分けて出資者を募っています。有名なところでは、社台サラブレッドクラブ〈代表馬：ダイナガリバー（昭和 61 年日本ダービー、有馬記念）、サッカーボーイ（昭和 63 年マイルチャンピオンシップ）、バブルガムフェロー（平成 7 年朝日杯 3 歳ステークス、平成 8 年天皇賞秋）〉やサンデーサラブレッドクラブ〈代表馬：ブエナビスタ（平成 21 年桜花賞、オークス、平成 22 年ヴィクトリアマイル、天皇賞秋、平成 23 年ジャパンカップ）、オルフェーヴル（平成 23 年皐月賞、日本ダービー、菊花賞、有馬記念、平成 24 年宝塚記念）〉などがあります。

アルバイトをさせていただいた会社は、社員が 4 名ほどの小さな会社だったため、会員
大和三田会 会報 No.4

(一口馬主)の管理事務など諸々の雑用をお手伝いしたほか、会報作成のために牧場で馬の写真を撮影したり、トレーニングセンターや競馬場での騎手や調教師への取材に同行するなど、馬好きにとって非常に魅力的な仕事をさせていただきました。そんな楽しいアルバイトにすっかりはまってしまい、次第に大学への足は遠のき、3年生からは授業をなるべく1日にまとめてアルバイトのスケジュールを組むという、アルバイト優先の塾生生活を送ることとなりました・・・。

また、競馬の実況中継に興味をもっている話を社員の方にとすると、ラジオたんぱ(現ラジオNIKKEI)の「レースアナウンサー養成講座」の受講を勧められました。毎週火曜日夜7時から9時の2時間、現役のアナウンサーからアナウンスの基礎を学んだほか、実際に競馬場の放送席で実況の練習をしたりしました。

同期の受講生は、私のような学生のほか、社会人の方もおり、中には後にアナウンサーに転職された方もいらっしゃいました。結局、私は実況アナウンサーになることはできませんでしたが、この講座での経験が、大学卒業後の現在の仕事にも多少なりとも活かすことができているのではないかと考えています。



第5回大和三田会総会



平成24年6月9日(土)、大和三田会第5回総会及び懇親会が、横浜うかい亭で開催されました。当日は、多くの会員・家族の方の参加をいただき盛会に開催されましたが、改めて総会及び懇親会を振り返ってみたいと思います。総会は清水麻帆会員(平成9年法学部卒)の司会のもと、初めに太田滋会長(昭和23年工学部卒)から開会のご挨拶をいただき、議案の審議に入りました。

大和三田会会長 太田 滋

本日は大変お忙しいところ、大和三田会の第5回総会あたり、皆様それぞれ御多忙のところ、斯くも大勢の塾員諸君のご出席を戴き、お陰様で斯様に盛大な三田会と相成り、御同慶至極に存じます。



本会も慶應義塾創立150周年を記念して、当大和市在住の有力塾員の御尽力により、本大和三田会が平成8年に結成されてから早くも4年を経過いたしました。

本三田会も昨年は本格的な活動に移るべきと考えておりましたが、如何せん昨年3月11日に起きました東日本大震災により、総てが自粛ムードとなりました。

年が変わり、国全体が萎縮から発展への過程に移りつつあると思われまます。皆様の更なる御意見により大和三田会を更に更に盛り立てて戴きたく、心よりお願い致します。

簡単ですが、開会の挨拶と致します。

第1部・総会の議事内容については次の通りで、原案通り承認されました。なお、予算計画案について、急激に繰越金を減らすことなく、予算額に見合った事業計画にして欲しいとの意見がありましたが、無事に承認されました。

1. 平成23年度事業報告
2. 平成23年度決算報告
3. 新役員承認の件

4. 平成 24 年度事業計画
5. 平成 24 年度予算計画（案）

第 2 部では、特定非営利活動法人かものはしプロジェクト共同代表の村田早耶香氏から、「カンボジアの児童買春問題に挑む若き NPO」と題してご講演をいただきました。

講演では、タイ国境近くの貧しい農村で生まれた少女が、だまされて売春宿に売られた金額がわずか 1 万円であった。その時自分が着ていたワンピースが 1 万円で、一人の女の子の命の値段と同じであることが重く心に響いたとのことでした。これがきっかけで



団体を立ち上げることになり、カンボジアでだまされて売買される子どもをなくすために、現地警察の能力強化支援や、貧困層の自立支援のための工房経営などの活動を展開しているとのこと、今後も活動していきたいと熱く語っていました。



ご講演の後、参加者全員で記念撮影を行いました。

第3部では、総会に引き続き清水麻帆会員（平成9年法学部卒）の司会のもと懇親会がスタートしました。

最初に、吉村満会員（昭和48年法学部卒）の指揮、石井一夫会員（昭和49年文学部卒）のピアノ伴奏に合わせ、荘厳に慶應義塾塾歌を斉唱しました。



その後、石塚雅男副会長（昭和40年経済学部卒）から挨拶があり、続いて来賓紹介と、来賓を代表して早稲田大学大和稲門会の宮崎氏からお祝いのご挨拶をいただきました。

続いて、大和三田会顧問甘利明会員（昭和47年法学部卒）の発声により乾杯があり、歓談に入りました。

その後、上田利久会員（昭和25年医学部卒）のご夫人郁代様と大杉光恵様による歌とピアノ演奏がありました。当日は、カンツォーネでクルティス作曲「TI VOGLIO TANTO BENE あなたがとても好き」。ピアノ曲でドビュッシー「子供の領分」より「グラドゥス・アド・パルナッスム博士」ほか数曲の歌とピアノ演奏があり、素敵な歌声、演奏に会場は酔いしれていました。

しばらく歓談した後、会場は「丘の上」、「慶應讃歌」、「若き血」、「慶應義塾塾歌」等の思い出深い歌に包まれました。指揮は吉村さん、ピアノ伴奏は石井さんにより、円陣を組み歌いました。



その後、古木通夫幹事長（昭和 44 年経済学部卒）によるエールが行われました。
 楽しく盛り上がった懇親会も、終了の時を迎え、井上勝彦副会長（昭和 36 年経済学部卒）による中締めのご挨拶があり、懇親会は盛況のうちに閉会となりました。



自由投稿

自由投稿のコーナーでは、皆様からの投稿もお待ちしております。

サラリーマンが茶道家へ変身した遠い道

河野和彦 法学部 昭和44年卒業

1. 腰掛の積もりの入社が…

私は塾を卒業後、将来は故郷に帰り父の事業を継承するための修行の場として東急不動産に入社しました。そして来春には退社しようと思った直後の入社4年目（昭和47年）夏のある日、唐突に海外赴任を命じられました。当時の東急不動産の事業地は東京周辺で、大阪でさえ調査のための事務所が開設されたばかりでしたので、海外への転勤など、それこそ「想定外」でした。

それから二ヶ月は英会話と簿記の特訓期間でした。英会話は中学時代からの沢山のペンパルとの文通と大学時代の会話学校通いで、何の苦痛も感じませんでした。問題は簿記です。大学三年生の時に会計学の授業に一回出ただけで、「これは学問ではない。」と勝手に判断して、その後、一切授業に出ず、試験も受けなかったのです。貸し方、借り方も判らないのに、目標は英文会計。財務課の指導で、何とか伝票記入くらいは出来るようになりましたが、英文会計は現地の会計士に教えてもらいなさい、との由。

2. ハネムーン・カップルに囲まれグアムへ赴任

そして二ヵ月後の十月下旬には、一緒に辞令を受けた先輩の建築家と羽田を発ちました。機内は新婚のカップルばかり。両方の窓側2席がカップルの席で、通路側の一席が我々です。なんとも気詰まりな4時間の飛行でした。

グアムでは住宅団地開発を手始めに、第二団地の用地買収やコンドミニアム開発にも着手し、仕事が俄然面白くなってきました。更に、グアムから南西に800kmほど行ったパラオでのホテル計画が持ち上がり、その担当も兼ねることになり、三ヶ月に一度ほどはパラオへ出張するようになりました。このパラオの計画には結局、土地の買収からホテル建設、その後の開業指導まで足掛け20年携わりました。

このグアムとパラオでの海外事業がきっかけで、その後何度か国内勤務はしましたが、会社人生の四分の三ほどを海外畑で過ごし、実家に戻ることもありませんでした。

駐在したところは、グアム、パラオ、ロスアンゼルス、ジャカルタ、シンガポールと、東急不動産の海外事業地全てに及びました。また出張地は、オーストラリア、ハワイ、タヒチ、フィジー、ニューカレドニア、バヌアツ、香港、フィリピン、タイ、マレーシア、ド

イツ、イギリスなど、米国内では 50 都市以上に及びました。



(写真左) 団地開発用地のジャングルにて (右端が筆者)

(写真中央) 同上団地の起工式 (右から 5 人目が筆者)

(写真右) 竣工直後のパラオのホテル

3. 茶道との関り：若いアメリカ人との出会い

ロスアンゼルス駐在時の 1992 年、あるホテルでのパーティーが、私を茶道へ導くキッカケになりました。たまたま話しかけた米人の証券マンが日本の歴史に興味を示し、彼の質問に答える形で話が弾みました。最初は歴史の流れやその時代の制度など一般的な内容だったのですが、彼は意外にも多くのことを知っており、だんだん内容が専門的になっていきました。日本史については大学入試の課目でもあり、時代小説や歴史書を沢山読んでいたので答えることが出来たのですが、安土桃山時代の陶器や蒔絵・日本画などの細部のこととなると質問に答えることが難しくなりました。

陶土や釉薬、更には蒔絵の種類といった彼の知識の深さにすっかり舌を巻いて、「どうしてそんなに日本文化に詳しいのか？」と尋ねました。すると、「今は証券業界に身を置いているが、東部の大学で日本文化に触れて興味を持ち、その後、ロンドンに渡り日本学の修士号まで取った。」というのです。修士号と聞いて、私の知識が及ばないのは当然だ、と思いました。

しかし、よくよく考えると彼は日本文化について長くても 10 年勉強したのに過ぎないのです。その彼に日本人として生を受け、大学まで出て、その後もずっと日本社会で生きてきた自分が、彼の知識に及ばないことに愕然とし、恥ずかしくなりました。

その時に思い出したのが、母が教えている茶道でした。茶道は日本の伝統文化の殆ど全てのもので繋がっていますので、伝統文化を学ぶベースキャンプになるはず、と気づいたのです。それでロスアンゼルス日本人会の名簿から茶道の先生を探し、稽古を始めようとしたのですが、急遽、帰国命令が出てしまい、ロスアンゼルスでの稽古は出来なくなりました。

4. 泥縄的点前でお持て成し

帰国後、しばらくしてから、知人の二家族を我家で接待する際、私がお茶を点てることになりました。その時にはお茶を始めていた家内から急遽手ほどきを受け、又、直前の週末には実家に戻り、母の特訓を受けました。母の指導は厳しく、指の先まで細かく注意されましたが、こんなに細心の注意を払ってお茶を点てているのか、と驚くと共に感銘を受けました。にわか仕込みでしたが、お陰で無事薄茶を点てて友人達を持成すことが出来ました。

5. シンガポールで本格的に稽古開始

その後、家内を先生に稽古をしたり、時々各地のお茶会に家内の後ろに隠れて参加したりしながら（濡れ落ち葉？）、稽古場を探しているうちに、インドネシアでのコンドミニウム・プロジェクト開発を命じられジャカルタに赴任しました。1997年の正月です。

ジャカルタでは仕事が忙しくて、しかも1ヶ月置きに帰国して本社との打ち合わせがあったため、お茶の稽古を始めることは出来ませんでした。しかし運の良いことに、滞在しているホテルの宴会場で開かれた、裏千家ジャカルタ支部のお茶会に飛び入り参加したり、薄茶の容器、棗に形が似たスマトラ島のパレンバンの漆器を買ったり、とお茶と関係を持つことは出来ました。

しかし、アジアの通貨危機が起き、ジャカルタの経済も急速に悪化し、私のプロジェクトも延期せざるを得なくなりました。ちょうどその頃、シンガポールの現地法人の責任者が帰国を希望していたので、手を上げて、その後任としてシンガポールに転勤しました。1998年5月のことです。

着任直後に、シンガポール裏千家道場の門を叩きました。そこの先生にご挨拶し、持参した許状をお見せすると、その場で「お点前をしてください」、と言われ、ちょっとビックリしました。入門テストのようです。しかし、茶室を覗くと、以前自宅で友人にお茶を点てた時とそっくり同じ炉や棚だったので、慌てることなく点前をすることが出来ました。先生は私の点前をご覧になって入門を許可してくれましたが、後々いろんな誤解の始まりになるとはそのときには気づきませんでした。

「許状」について

お茶を始めるには、家元から許状を貰わなければなりません。剣道や柔道などの武術の免許とは違い、誰某の入門を許可する、これこれの課目を稽古して宜しい、と一つ一つ前もって許状を頂いて稽古を始めることが許されるのです。

私の場合、結婚後しばらくして母が家内と二人分の許状を相当上位のものまで申請し、我が家に送りつけてきました。そのため、シンガポールに赴任したときには、許状上は経験が15年以上経っていたのです。所謂ペーパードライバー以下の状態ですが、シンガポ

ル道場の先生はそれを説明しても信じてくれませんでした。入門時の時の点前がスムーズだったので、相当な経験があるのだと思われてしまったのです。

稽古は月三回、月曜日の夜7時からでした。毎週稽古の時間が待ち遠しい気持ちで、時間になるといそいそと稽古場に通いました。稽古場での時間の流れはゆったりとしていて別世界でした。稽古中は仕事の事を考えることもなく、お茶に集中しますので、それが精神的リフレッシュとなりました。稽古場には駐在員夫人の他にシンガポール人やマレー人、ブラジル人まで居ましたが、皆、流暢な日本語で稽古をしています。又、稽古に使われて



(写真) 右端は韓国人、その隣がマレーシア人

それを改良したり改善したりしてきました。明治以降の和魂洋才で産業を興し貿易で発展してきた日本の歴史と茶道の歴史は合い通じるものです。

それと毎回稽古場の床の間に掛かる軸の言葉に惹かれました。殆ど始めてお目にかかる禅語ですが、意味や歴史を調べるのが楽しみになっていきました。

ところで中国系シンガポール人は中国語を話しますが、漢字は殆ど知りません。自分の名前すら漢字で書けない人が大半です。茶会の時には漢字一字一字の意味を解説してから全体の意味を説明しました。禅語には中国の故事にまつわるものも多いのでそれに触れて説明すると、シンガポール人は興味を示してくれました。自分達のルーツにかかわるものもあるからでしょう。

次に興味を抱いたのが和歌です。茶杓や茶入の銘（詩的な名前）には古今和歌集や百人一首などの和歌から採られているものが多いのです。その歌の作者や読まれたときの背景なども知らない、銘の謎解きが出来ないのです。

例えば、「生野」という有名な丹波焼の茶入があります。これは

「大江山 いく野の道の 遠ければ 未だふみも見ず 天の橋立」

という百人一首から取ったものです。この歌の作者は小式部内侍でその母、泉式部が夫の任地、丹後に居たときに、小式部内侍が中納言定頼（彼女の恋人）から「母君が不在で心細いでしょうね。歌の相談のために母上に使いを遣りましたか、使いは帰ってきましたか。」とからかわれたときに詠んだ歌です。

意味は、「大江山を越えて行き、生野を通って行く道のりは遥かに遠いから、未だ天橋立の地も踏んでもいませんし、(母からの) 文も見えてはいません。」です。丹後は丹波の国ですから丹波焼の茶入に「生野」と名づけたのが、小堀遠州です。

このように茶道の稽古では、日本の伝統文化と同時に外国、特に中国や朝鮮半島との歴史的繋がりなども学べます。

時々困ったのが、許状に関する事です。先ほどお話ししましたが、母が勝手に取ってくれた許状でしたので、稽古をせずに放っておき、シンガポールで稽古を始めたときには15年も経っていたのと、たまたま入門時の点前がスラスラ出来たので、先生が私の茶の経歴を誤解してしまったのです。最近の国内の事情に疎くなっていた先生は、点前の細部について、時折、私に相談を持ちかけるのです。そのたびにペーパードライバーなので知りませんとお答えするのですが、先生はそれを信用しないで、私が謙遜していると思っていますのです。一般的に、女性は知っていても「全然知りません。」とか、「経験は少ないので、」などというのと同じだと思っていらしたようです。いつも冷や汗をかいたものでした。

6. 各国駐在武官たちへのお茶の振る舞い



(写真) 駐在武官の方々

シンガポール駐在日本国大使館で自衛隊記念日(11月1日)に各国駐在武官とその夫人方を招いたパーティーが開かれ、裏千家シンガポール道場がお茶席を担当することになりました。大使館には二つの茶室がありました。和室の茶室と椅子席(立礼)の茶室です。シンガポール道場の4人の男性が和室を担当し、全員が着物を着ました。お客の外国武

官や婦人方は日本女性の着物姿は見慣れていましたが、男性の着物姿は珍しいと興味津々です。しかもその男性がお茶を点て振舞うのですから、席はいつも満席でした。

毎回、席主が茶道の歴史や床の間の掛け軸について解説しましたが、質問も多く出ました。お茶が女性のものでない、と言うことが一番の驚きだった様子でした。駐在武官達は礼装で茶席に入りましたが、正座は当然出来ません。楽しんでください、というと彼らがやった座り方は女性の横坐りです。軍人がなよなよと座る姿は奇妙でした。

最初の席の正客と次客(二番目)は日本大使ご夫妻にお願いしましたが、流石お二人の作法は堂に入ったものでした。毎年外務省で開催する外国に赴任する若手外交官への講習会には裏千家のお家元が講師として招かれています。ですから外交官の方々はお茶についての基礎知識とお茶の頂き方は知っておられるのです。また、松下幸之助氏の考えにより松下政経塾の課程にも裏千家の講習が組み込まれています。

7. 家元との出会い——家元修行の誘い



(写真) お家元を囲んで

話は前後しますが、1999年6月に裏千家15代家元鵬雲斎がシンガポールに来訪しました。シンガポール大学に招かれて講演するためです。その時の歓迎夕食会で、親しく家元と話す機会が持てました。国内では、組織が大きいためと考えられないことです。

お茶を始めた動機やもっと深く茶道を研究したいという気持ちを述べたところ、家元が京都の裏千家学園への入学を示唆してくれました。それまでそんな学校があることを知りませんでした。行けるとしても定年後だろうな、と思っただけでした。

8. 早期退社、母の急逝、そして茶道修行に

2001年9月、帰国と同時に東急不動産を退社し、ベンチャー企業に転職しました。ここでは外資と組んで国内や海外の不動産投資案件の組み立てなどを担当しました。久しぶりの国内出張も経験し楽しく仕事をすることができましたが、翌年三月に母が急逝して事態がわかりました。茶道を指導してもらえなくなる人が居なくなってしまったのです。

母の葬儀で裏千家との意外な繋がりがわかりました。葬儀に参加した横浜の親戚の建てたアパートの最初の住人が、その後、京都に移り裏千家の家元に入り、しかも今では裏千家学園の専任講師になっていることが判明したのです。この頃、同学園への入学を真剣に検討していたので、早速横浜のホテルにある、その先生の稽古場に行き学園のことを尋ねましたら、入学を強く勧めて頂きました。

それからの準備が大変でした。2002年10月にベンチャー企業を退社し京都に行き、裏千家学園を訪問し、稽古を見学したり、学生生活の内容を聞いた上で、受験の申し込みをしました。申し込んだのは裏千家学園茶道専門学校の中での一番上のクラス、研究科6ヶ月コースです。試験科目は事前の論文提出と京都での面接でした。何とか試験に合格し、2003年9月に入学することになりました。

9. 学園での「お茶漬け」生活

学園は全寮制です。ワンルーム・マンションの独身寮に入りました。生活は毎日同じ時間で進行します。

6時起床、部屋で朝食し、着物に着替える

7時半登校

8時から講堂で講和と座禅
8時40分 授業開始(1時限80分、午前午後2時限づつ)
17時 夕食(学校で)
19時半頃から寮の広間で自主稽古など



研究科は隔週土曜日も授業で月に三回ほど日曜日にも家元稽古の見学が許されています。又、天龍寺や大徳寺などでの献茶式にも参列するため、殆どの休みがありません。在学中の6ヶ月間は観光を殆ど出来ませんでした。

(写真) 学園での稽古風景

10. 学園卒業、茶道教室を開設

2004年3月に裏千家学園を卒業し、自宅で茶道教室を開設し、又、読売・日本テレビ文化センターでの茶道講座も始めました。

私の目標は、茶道を通じての伝統的日本文化の普及であり、モットーは「日本人になろう。それから国際人を目指そう。」です。現代の日本人は自国の文化に触れることなしに生活しています。口の悪い人はそれを「在日日本人」と呼んでいます。

ですから私の教室では、単にお茶の点前・作法だけではなく、歴史、禅、和歌などを講義しますし、時折宿題を出し、いろいろなことを調べてもらうことにしています。因みに茶道に必要な知識は以下の通りです。

禅語、和歌、能楽、書道、香道、陶磁器、金工芸、木竹工芸、漆芸、古代帛地、懐石料理、和菓子、露地(茶庭)、茶室建築、茶花、着物、抹茶、点前、作法
茶道を学ぶことにより、精神的に豊かになり楽しくなること、請け合いです。

【茶の湯の豆知識】

抹茶には①薄茶と②濃茶の二種類があります。

① 濃茶は薄茶の二倍以上の濃さでドロっとしています。一碗に3~5人分を練り、飲みまわします。

空腹では刺激が強いので、胃を保護するために出すのが懐石料理です。

また、懐石料理の後、主菓子(饅頭や金団など)も出します。

② 薄茶は一人一碗が原則です。これには干菓子が付きます。

濃茶、薄茶ともに、まず菓子を全部食べてからお茶を飲むのが作法です。

ランドスケープの世界

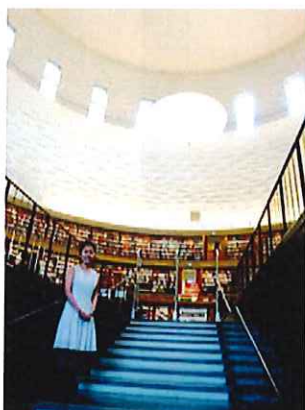
椎木 空海 政策・メディア研究科 平成 20 年卒業

全ての道は森に通ずる・・・海と湖に囲まれた街の真ん中には、住民が集う豊潤な森がありました。フィンランド、スウェーデン、デンマークの環境デザインを友人と探訪しました。



百の湖を有する森へ、人々は赤い蓋付のバケツを手に出かけます。林床の野生のブルーベリーやキノコを摘み、湖畔のサウナで寛ぎます。行き会った叔父様からは、熱くて甘いコーヒーを御馳走になりながら、湖の夕暮れを詠んだ詩を伺ったり、森で食べても良い植物を教わったり、庭先のお母さんから木苺をどっさり頂いたりしました。旅行者の私達にも、自慢の森と一緒に守り楽しんで欲しい、という心意気に感激しました。

森は、北欧の人々にとって、祈りの場でもあります。ストックホルムの世界遺産「森の葬祭場」では、なだらかな芝生に伸びる一本道を歩いていくと、心が静まり、空は限りなく広く、近くなります。菩提樹の丘から吹き渡る風が、睡蓮の池をすべり、白樺の木を鳴らします。奥に進むにつれ、道には背の高いモミや松が迫り、空は細く高くなります。林に並ぶ墓碑の静けさは深く、色とりどりの花が育ち、木漏れ日が踊っています。生物のダイナミズム、明と暗の空間の展開に、命の巡りを思いました。



スウェーデンとフィンランドは、日本と似て国土の7割を森林が占め、木の表情を活かす建築やランドスケープの文化です。アスプルンドによる市立図書館の階段を上ると、そこは、書棚に囲まれた円筒型の広場で、高窓の光は白壁で拡散し、柔らかな光に満ちています。知の世界にワープする劇的なデザインです。

コペンハーゲンのルイジアナ美術館は、海から丘に沿ったガラスの回廊で結ばれています。内から芝生の彫刻を眺め、地下に潜り展示を見て、海峡を臨む土手の中腹に出る、という具合にアートを巡る

探検です。テラスで大人達はワインを傾け、お腹がいっぱいの子供達はフカフカの斜面を転げて、人も自然も声をあげて夏を喜びます。氷の器に山盛りのシーフードは、友人の顔が隠れるほどで、心もお腹も満たされる時間でした。今回訪れた都市では、多様な緑を街に持ち込み、市民が年月をかけて育てることで、「森と生き



る都市」という統一感もたらされています。

石川教授のもと、バシュコルトスタン共和国の首都ウファのパークシステム策定に関わった際は、100年後のコンパクトシティを見据え、リーディングプロジェクトとして都市中心部の森から川へ至るランドスケープをプレゼンし、市民・行政の「スパシーバ!」という共感により実現しました。大和市には、つるま自然の森や泉の森、美しいモザイク状の庭々など、誇るべき緑があります。21世紀の環境都市として可能性を磨き、楽しみ、未来に受け継ぎたいと思います。



(写真) 森と湖に囲まれて・・・デンマーク上空

おしらせ

第5回 大和三田会親睦ゴルフ大会 結果報告

大和三田会で初のお泊まり旅行を実現。当日はゴルフ場がチャーターした観光バスが大和、南林間、中央林間、つきみ野とゴルフ場を往復。行きのバスから飲み始めました。泊まり組9名は旅館のバスがゴルフ場出迎え、翌日大和迄送り届け。自家用車での参加はなく、安心の遠出・お泊まりありのコンペとなりました。



開催日時：9月28日

開催場所：十里木カントリークラブ（富士の裾野）

参加人数：15名

優勝者等：1位 佐藤 昌巳さん（昭和36年商学部卒）
2位 渡邊 悦元さん（昭和39年経済学部卒）
3位 菊地 弘さん（昭和45年経済学部卒）

ゴルフ同好会参加のお誘い

ゴルフ同好会参加者を募集します。

コンペは春・秋の年2回。ご参加の際は会員家族・恋人・友人の同伴も歓迎します。参加ご希望の方は、土橋篤会員（昭和50年工学部卒）迄メールまたはFAXで、ご連絡下さい。参加希望者は、コンペ当日の連絡のため携帯電話番号をお知らせ下さい。

土橋会員 連絡先

メールアドレス：atsushi.tsuchihashi@gmail.com

FAX：046-276-6672

原稿募集中

大和三田会会報委員会では、会報に掲載する原稿を募集しています。

塾生時代の思い出

皆様の塾生時代の思い出についてご寄稿ください。(800～1600 文字程度)

自由投稿

随筆、紀行文、短歌、俳句、詩、その他ご自由なテーマでの執筆をお待ちしております。
(400～6000 文字程度)

応募方法

投稿をご希望の方は、株式会社古木企画内 大和三田会事務局または会報委員長吉村満会員（昭和 48 年法学部卒）迄メールでご連絡ください。

連絡先

大和三田会事務局：f-kikaku-m@jcom.home.ne.jp

大和三田会会報委員長 吉村 満：manyoshi@jcom.home.ne.jp

今後の活動

平成 25 年新年会のご案内

下記の通り、平成 25 年新年会を開催いたします。ご参加の可否につきましては、別紙ご案内をご覧ください。

なお、ご家族の方々のご参加も歓迎いたします。

開催日時	平成 25 年 1 月 12 日（土）
開催場所	欧風台所 ラ・パレット（中央林間）
お問い合わせ先 及び返信先 （幹事長宛）	〒242-0007 大和市中心林間 4-27-18 株式会社古木企画 内 電話：046-276-5228 FAX：046-273-7155 メール：f-kikaku-m@jcom.home.ne.jp

第 6 回 大和三田会総会

日時：平成 25 年 6 月 8 日（土）

場所：横浜うかい亭



大和三田会

